

岐阜県ユニセフ協会設立趣意書

2011年11月15日

ユニセフ（国際連合児童基金）は、第二次世界大戦により厳しい生活を強いられていた子どもたちへの緊急支援を行うため、1946年に創設されました。日本の子どもたちは1949年から1964年の15年にわたり、ユニセフから給食用の粉ミルクや薬、原綿などの支援を受けました。1965年にはユニセフに対し、「ノーベル平和賞」が贈られています。現在は、戦争で被災した子どもに限らず、150以上（※1）の国と地域で水、栄養、教育、保健、衛生、保護などの支援活動を通して、子どもたちの命と健やかな成長を支えています。

1989年の国連総会で「児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）」が採択されました。ユニセフ（国連児童基金）は、この条約の精神に基づいて活動をしています。活動は国連から財政的支援を受けず、募金と各国政府による任意の拠出金により行われています。1955年に財団法人として設立された日本ユニセフ協会は、1977年には日本におけるユニセフを代表する国内委員会として正式に承認されました。世界の子どもたちの状況についての広報や、「子どもの権利」の実現を目的としたアドボカシー（政策提言）活動、ユニセフ募金の呼び掛けを行っています。

岐阜県ユニセフ協会は公益財団法人日本ユニセフ協会と協力協定を結び、密接な連携を取りながらユニセフの活動を支援します。世界の子どもたちの実態やユニセフの支援活動を伝える広報、啓発活動。学校などへ出向いての出前学習会、ユニセフ・カードとギフトの頒布（※2）、ユニセフハンド・イン・ハンドの募金活動などを行います。

2011年3月11日に東日本大震災が起こり、ユニセフは半世紀ぶりに日本の子どもたちへの支援を始めました。こういう年に、岐阜県ユニセフ協会は全国で22番目の協定地域組織として誕生します。山紫水明な岐阜の地において、多くの県民の皆さまと一緒にユニセフの支援活動を広め、世界の子どもたちの命と健やかな成長を願い、岐阜県にユニセフの拠点をしっかりと築きます。

（※1）現在は、190の国と地域の支援活動

（※2）現在は、ユニセフ・カード、支援ギフトカタログの紹介を行っています。